

作成 2015年 2月 1日
改訂 2024年 3月 29日

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品の名称 : スーパークリーン ストロングⅢ (主剤)
品番 : MJS/ST3-G1K~G3K、G10K
会社名 : 株式会社 LIXIL
住所 : 東京都品川区西品川一丁目1番1号
担当部門 : LWTJ タイル事業部 タイル製造部 伊賀上野工場 品質保証課
緊急連絡先 : 〒518-0022 三重県伊賀市三田 1030 番地
緊急連絡電話番号 : TEL 0595-21-5114 FAX 0595-21-1601

2. 危険有害性の要約

物理化学的危険性	: 火薬類	区分対象外
	: 可燃性/引火性ガス	区分対象外
	: 可燃性/引火性エアゾール	区分対象外
	: 支燃性/酸化性ガス類	区分対象外
	: 高圧ガス	区分対象外
	: 引火性液体	区分外
	: 可燃性液体	区分対象外
	: 自己反応性物質及び混合物	区分対象外
	: 自然発火性液体	区分対象外
	: 自然発火性固体	区分対象外
	: 自己発熱性物質及び混合物	区分対象外
	: 水反応可燃性化学品	区分対象外
	: 酸化性液体	区分対象外
	: 酸化性固体	区分対象外
	: 有機過酸化物	区分対象外
	: 金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	: 急性毒性 (経口)	区分外
	: 急性毒性 (吸入: ガス)	区分対象外
	: 急性毒性 (吸入: 粉じん)	分類できない
	: 皮膚腐食性/刺激性	区分 2
	: 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分 2B

	: 呼吸器感作性または皮膚感作性	区分 1 (皮膚感作性)
	: 生殖細胞変異原性	分類できない
	: 発ガン性	分類できない
	: 生殖毒性	分類できない
	: 特定標的臓器/全身毒性 (単回ばく露)	分類できない
	: 特定標的臓器/全身毒性 (反復ばく露)	分類できない
	: 吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性	: 水生環境有毒性 (急性)	区分 1
	: 水生環境有毒性 (慢性)	区分 1
	上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。	

<ラベル要素>

絵表示又はシンボル



注意喚起語	: 警告
危険有害性情報	: 皮膚刺激
	: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
	: 眼刺激
	: 水生生物に非常に強い毒性
	: 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性
注意書き	
安全対策	: 取り扱い時は、保護具 (ゴーグル、ゴム手袋、マスクなど) を着用すること。
	: 取扱い後はよく手、顔を洗うこと。
	: ガス、ミスト、蒸気の吸入を避けること。
	: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
	: 環境への放出を避けること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

成分および含有量

成分名	ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂	乳化剤・添加剤	水
官報公示整理番号	7-1283	登録あり	対象外
CAS 番号	25068-38-6	登録あり	7732-18-5
含有量	54～56%	4～6%	38～42%

危険有害成分：ビスフェノール A 型エポキシ樹脂（PRTR 第 1 種指定化学物質）

4. 応急処置

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師の診断を受けること。必要に応じ、衣服をゆるめたり人工呼吸などの処置を行うこと。

皮膚に付着した場合：直ちに汚染された衣類を取り除くこと。皮膚を多量の石鹼と水で洗い流すこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗眼の際、まぶたを指で開いて、眼球、まぶたのすみずみまでよく洗浄する。直ちに医師の診断を受けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合：水で口の中を洗浄し、コップ 1～2 杯の水を飲ませる。直ちに医師の診断を受けること。被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

消火剤：粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水

特有の消火方法：消火作業は可能な限り風上から行う。火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。

消火を行う者の保護：消火作業の際は保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡など）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：作業の際は保護具（呼吸用保護具、保護衣、ゴム手袋、長靴、眼鏡など）を着用し、直接皮膚等に触れないようにする。

- 作業中は喚起を十分に行う。漏出した箇所はベタベタとした粘性があるので、靴が脱げたり転倒しないよう注意する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物を下水、河川、土壌など環境中へ漏出させてはならない。
- 除去方法 : 少量の場合は、布、オガクズなどで吸着させ取り除いた後、ウエス、雑巾などでよく拭き取る。多量の場合は、土砂、布などで囲い流出を防止し、バキュームや吸収材などで回収する。回収物は、都道府県知事の認可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託する。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを除去し、万一着火した場合に備え消火用器材を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

<取扱い>

- 技術的対策 : 取扱いは保護手袋、保護眼鏡、呼吸器、マスクなど適切な保護具を着用する。取扱い場所付近に洗眼設備、シャワーを設ける。
- 局所排気・全体排気 : 取扱い後は手洗い、うがいをする。
- 局所排気・全体排気 : 全体換気設備のある場所で取扱う。
- 安全取扱い注意事項 : 必要に応じ局所排気を行う。
- 安全取扱い注意事項 : 容器を転倒、落下、衝撃を加える、または引きずるなどの乱暴な扱いをしないこと。2. 危険有害性の要約を参照のこと。

<保管>

- 適切な保管条件 : 容器は密栓すること。5~40℃の屋内で直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。凍結を避ける。
- 混触禁止物質 : 強酸化剤、強無機酸、強無機塩基、有機塩基、アミン類。
- 安全な容器包装材料 : ポリエチレンなどの樹脂製容器、及びステンレスや防錆コーティングなど水分との接触により発錆しない金属製容器。

8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 : 全体換気及び局所排気が可能な設備を設置する。
- 蒸気やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- 取扱い場所付近に洗眼設備、シャワーを設ける。
- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度

日本産業衛生学会 : 設定されていない

保護具

呼吸器の保護具 : 防塵マスクもしくは有機溶剤用防毒マスク

手の保護具 : 不浸透性(耐薬品、耐油、耐溶剤)保護手袋

目の保護具 : 保護眼鏡またはゴーグル

皮膚及び身体の保護具

: 不浸透性耐油性の長袖作業着、樹脂製保護前掛け、長靴

9. 物理的及び化学的性質

外観 : 白色液状

臭い : わずかな特異臭

pH : 中性～弱酸性

融点・凝固点 : データなし

沸点、初留点と沸騰範囲

: データなし

引火点 : 水を含んだ製品の状態では引火点はない

自然発火温度 : データなし

燃焼又は爆発範囲 : データなし

蒸気圧 : データなし

蒸気密度 : データなし

比重(密度) : 約 1g/cm³

溶解性 : 水に易溶

n-オクタノール/水分配係数

: データなし

分解温度 : データなし

10. 安定性及び反応性

安定性 : 製品単独では安定。

危険有害反応可能性 : 強酸化剤、強無機酸、強無機塩基、有機塩基、アミン類と激しく反応する。反応時には発熱を伴う。

避けるべき条件 : 高温加熱および凍結を避ける。

混触危険物質 : 強酸化剤、強無機酸、強無機塩基、有機塩基、アミン類。

危険有害な分解生成物 : アルデヒド、酸、有機物

11. 有害性情報

急性毒性 (経口) : LD50 > 5,000mg/kg (ATE 計算値)

(経皮) : LD50>5、000mg/kg (ATE 計算値)

皮膚腐食性/刺激性 : 皮膚に対し刺激性があるが具体的なデータはなし。
皮膚に付着したまま放置、もしくは体質により炎症を起こす可能性がある。

含有するビスフェノール A 型エポキシ樹脂のデータ :

CERI ハザードデータ集 2001-36 (2002)、DFGOT vol. 19 (2003) のウサギに対する皮膚一次刺激性試験結果の記述「皮膚刺激性について刺激性なしから中等度の刺激性を有する」から、4 時間適用試験結果はないが、刺激性を有すると考えられる。(NITE)

眼に関する重篤な損傷性/刺激性

: 本品直接のデータはなし

含有するビスフェノール A 型エポキシ樹脂のデータ :

CERI ハザードデータ集 2001-36 (2002) のウサギに対する眼刺激性試験結果の記述「刺激性なしから軽度の刺激性を有する」から、軽度の刺激性を有すると考えられる。(NITE)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

: 本品直接のデータはなし

厚生労働省指針に定める措置をとる必要がある。

含有するビスフェノール A 型エポキシ樹脂のデータ :

CERI ハザードデータ集 2001-36 (2002)、DFGOT vol. 19 (2003) のヒトにおける症例研究やボランティア試験の結果、また、モルモットに対する皮膚感作性試験結果の記述及び日本職業・環境アレルギー学会による「皮膚感作性物質」という分類結果から、皮膚感作性を有すると考えられる。(NITE)

生殖細胞変位原性 : 本品直接のデータはなし

含有するビスフェノール A 型エポキシ樹脂のデータ :

DFGOT vol. 19 (2003) の記述から、経世代変異原性試験 (優性致死試験) で陰性、生殖細胞 in vivo 変異原性試験 (染色体異常試験) で陰性、体細胞 in vivo 変異原性試験 (小核試験、染色体異常試験) で陰性との記述より、GHS 分類上は区分外とした。(NITE)

但し、ビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂について労働省の有害性調査の結果、微生物を用いた変異原性試験および哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験で所定の基準を超える変異原性が認められている。

労働省指針に定める措置をとる必要がある。

発がん性 : IARC による評価分類に未掲載。

生殖毒性 : 本品直接のデータはなし

含有するビスフェノール A 型エポキシ樹脂のデータ :

生殖毒性試験、催奇形性試験のいずれにおいても親動物毒性がみられる用量で生殖および発生への影響はみられない。

特定標的臓器/全身毒性 : データなし
(単回ばく露)

特定標的臓器/全身毒性 : データなし
(単回ばく露)

吸引性呼吸器有害性 : データなし

12. 環境影響情報

生体毒性 : 本品直接のデータはなし

含有するビスフェノール A 型エポキシ樹脂のデータ :

甲殻類(オオミジンコ)の 48 時間 EC50=1.7mg/L (CERI・NITE 有害性評価書(暫定版)、2006)他から、本物質の水溶解度(0.041mg/L (CERI・NITE 有害性評価書(暫定版)、2006))において当該毒性が発現した可能性が否定できない。(NITE)

残留性/分解性 : 直接のデータはないが、含有するビスフェノール A 型液状エポキシ樹脂は急速分解性がない。

他の有害影響 : 高濃度で環境中に排出された場合、悪影響を及ぼす可能性がある。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 内容物・容器を国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

汚染容器及び包装 : 容器に残留している製品を水でよくすすぎ、都道府県知事の認可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託する。すすぎ後の水は残余廃棄物と同じ処理を行う。
製品を使用する地域の法規制に注意する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類・国連番号

国連分類 : クラス 9(その他有害性物質)
国連番号 : 3082 (環境有害性物質(液体)、n. o. s.)
容器等級 : III

国内規制

適用法令 : 該当ない
緊急時応急措置指針番号 : 171

輸送の特定の安全対策及び条件

: 輸送前に容器に破損、漏れのない事を確認する。
転倒、落下などの荷崩れを防止する措置を確実に行う。
容器に衝撃を加えないよう積込、輸送を行う。
着火源から隔離する。
直射日光を避け、40℃以上になる鉄板、地面などに直接置かないこと。輸送時の温度は、7項の保管条件に準ずること。

15. 適用法令

消防法 : 該当しない

毒物及び劇物取締法 : 該当しない

労働安全衛生法 : 第 57 条の 5、労働基準局長通達、変異原性の認められた既存化学物質を含む。【ビスフェノール A 型エポキシ樹脂中間体(液状のもの)、政令番号 96、含有量 54~56%】
皮膚等障害化学物質 (労働安全衛生規則第 594 条の 2 第 1 項)
皮膚刺激性有害物質 : 【4、4' -イソプロピリデンジフェノールと 1-クロロ-2、3-エポキシプロパンの重縮合物(別名ビスフェノール A 型エポキシ樹脂)(液状のものに限る)

化審法 : 第 2 条第 5 項、優先評価化学物質を含む
【4、4' -イソプロピリデンジフェノールと 1-クロロ-2、3-エポキシプロパンの重縮合物(別名ビスフェノール A 型エポキシ樹脂)(液状のものに限る)、政令番号 87、含有量 54~56%】

化学物質排出把握管理促進法

: 該当しない

労働基準法 : 平成 8 年 3 月 29 日付 労働省告示 第 33 号
平成 8 年 3 月 29 日付 労働基準局長通達 基発第 182 号対象

物質を含む

平成 8 年 3 月 29 日付 労働基準局長通達 基発第 182 号の 2
対象物質を含む

【ビスフェノール A 型エポキシ樹脂、含有量 54～56%】

【疾病化学物質(法第 75 条第 2 項、施工規則第 35 条・別表
第 1 の 2 第 4 号 1・昭 53 労告 36 号)ビスフェノール A 型エポ
キシ樹脂、含有量 54～56%】

製品を使用する地域の法規制に注意する。

16. その他の情報

記載事項は現時点で入手できた資料・情報・データに基づき作成してありますが、物理化学物質・危険・有害性等に関しましては、いかなる保障をなすものではありません。又、注意事項は通常取り扱いを対象としたもので、特殊な取り扱いを行う場合には、十分な安全・衛生・環境対策を実施して下さい。

途中改訂 2015 年 4 月 1 日
2016 年 8 月 18 日
2022 年 12 月 1 日